

SUPER 耐久シリーズ 2014

第1戦

ツインリンクもてぎ



東 徹次郎

TOHJIRO AZUMA

新体制での幕開けとなった開幕戦！！

豪雨でのサバイバルレースを追い上げて3位獲得！！

- ・開催サーキット：ツインリンクもてぎ（4.801km）
- ・チーム：TRACYSPORTS
- ・マシン：TRACY SPORTS TWS C-WEST IS 350
- ・メンテナンス：TRACY SPORTS
- ・カーナンバー：#39
- ・クラス：ST-3
- ・ドライバー：A 佐藤 晋也 B 神子島 みか
C 東 徹次郎 D 佐々木 孝太



予選（3月29日）

◆Weather：晴れ ◆Course：ドライ

今回はCドライバー予選も台数が多い為にクラス分けされていたので、走りやすい予選となりました。

しかしながら金曜からなかなかマシンバランスが良い状態とは言えず、毎回セットアップを変更して試すという良くない流れでした。

尚且つ金曜の練習では2速が入らなくなり、予選日の土曜に至っては朝のウォームアップから1速と2速が入らないというトラブルに見舞われてしまい、予選を1・2速無しで走るという苦しい展開となっていました。

A・Bドライバーの合算タイムで決勝順位は決まる為、自分の走るCドライバー予選からはいろいろ試す時間にもなります。

自分の予選のときは、決勝を想定して燃料も85L近く積んでかなり重い状態での走行となりました。

決勝スタート時想定でのマシンバランスを見るのが目的です。

Aドライバー予選時はNEWタイヤなのにグリップ感が少なく、ブレーキング時にリアが少し不安定でオーバーステア気味ということで、Bドライバー予選ではリアの車高を下げました。

そして自分の予選時にその状態でガソリンを多く積み、重い状態で決勝でのバランスの確認となりました。

重い状態は思ったより加速体制でのバランスは悪くはありませんでしたが、やはりブレーキを残してコーナーに入ろうとするとステアリングを切り始めた瞬間にリアのイン側のタイヤがピクッと浮いてめくれる動きが出てしまいます。

また、その対策としてほぼ縦の状態ではブレーキを完了させ、コーナー進入時にはブレーキを残さないで入るので、どうしても最後のクリップ付近で一番ステアリングを切るときに荷重が抜けきっているのがアンダーステアでした。

結局軽い状態で走ったもう一台のIS‘38号車’とは1秒差のクラス5位でCドライバー予選を終えました。

ちなみにこの後のDドライバー予選では、Dドライバーを登録しているチームは少なくこの時間も走りやすいので、逆に軽い状態で再びセットアップを変更して臨みました。

前日より確実にマシンバランスは良くなってきているものの、予選後もエンジニアを交えて決勝に向けてのマシンセットについて、入念にミーティングしました。

A ドライバー予選タイム：2'06.819 総合 16 位（クラス 5 位）

B ドライバー予選タイム：2'08.024 総合 18 位（クラス 7 位）

A・B 合算タイム：クラス 7 位

C ドライバー予選タイム：2'08.325 総合 12 位（クラス 5 位）

D ドライバー予選タイム：2'06.739 総合 2 位（クラス 1 位）



決勝（3月30日）

◆Weather：雨 ◆Course：ウェット

決勝の日曜日は前日までと打って変わって朝から雨です。スタート時間になるとより雨足は強くなり、5時間の長丁場のレースが確実にサバイバルレースになるであろうという予想がつくほどでした。

スタートドライバーは佐藤晋也選手が担当します。経験も豊富な佐藤選手、序盤は水の溜まったコースの影響でコースアウトやクラッシュが続出する中、トップと遜色ないペースで走行し確実にポジションを上げていきます。そして45Lapを終えたところでクラス3位までポジションを上げ、ピットインし佐々木孝太選手へバトンを繋ぎます。

佐々木選手のときはフロントタイヤのみ交換してピットアウトしたのですが、思いのほかマシンバランスが悪くなってしまい、リアの不安定な動きに苦戦しながらも後続とのリードを広げていきます。

そしてこのスティントでもセーフティーカーは入らないので、佐々木選手もロングで45Lapまで走りピットへ。

ここから変則的なショートスティントの作戦となります。神子島選手がまだISでウェットに慣れていないこと、そしてドライバー交代時にシートに体を固定するためのバスマットを入れるのに時間もかかってしまうことを考慮して、まず佐々木選手との交代のときに最後まで走りきれる量の給油作業に入ります。

この給油時間中にドライバー交代を済ませ、すぐさまコースへ。

そして、ストレートを1回通過後、再びそのままピットへ。

ここで今度はタイヤを4本交換しているうちに、神子島選手から自分へとドライバー交代を済ませました。

最初に走った佐藤選手からこのウェット路面での注意すべき点を聞いていたので身構えて最初の数周はいましたが、自分の思っていたよりは水溜りも少なく走りやすい状況でした。

しかしながら雨量が一定ではないので気は抜けない状況なのと、特に最終コーナー手前は大きな水溜りが出来ていて多くの車がコースアウトしていたので、毎回ここだけは細心の注意を払っていました。

マシンバランスもタイヤを4本交換したので変な癖は無く比較的扱いやすい感じでした。

しかし燃料が減ってくるにつれてタイムは自然に出やすくなってきたものの、

コーナー進入時にブレーキを残して進入しようとする途端にオーバーステアになってリアの動きが神経質になってきたので、乗り方を縦の状態ですべてブレーキングを終わらせ、エンジnbrakeを多めに使ってステアリングを切り込むときにはブレーキは完全にオフにする乗り方にスイッチして行きました。

後続のマシンとは離れていたため、自分は走り始めから常に無線で2位の5号車とのギャップやタイムを聞きながら意識して走りました。

トップ2台とほぼ同じペースでは走れているものの、この2台に勝るペースが作れなかったため、結局追いつくまでには至りませんでした。

最後のスティントは約1時間半、34Lapを走行し、クラス3位でチェッカー。5時間のサバイバルレースを無事にノートラブルで完走しました。

決勝結果：クラス3位（126Laps）

39号車ベストタイム：2'18.115

ST-3クラスファーストストラップ：2'18.118



反省

今回は助人的な立ち位置でしたので、練習も今までとは違った時間の使い方でした。

メインの2人にたくさん時間を使ってもらい、ある程度マシンもまとまってきたときに確認程度に乗るといった感じです。

だから、金曜の1時間3本の専有も、計測4周のみでした。

土曜のCドライバー予選で初めてまともに自分だけの時間として走った印象です。

土曜の予選に関して言えば、満タンで重たいとはいえもう少しタイムを出せたらという自分に対しての悔しさはありますが、今回のこの少ない時間の中でしっかりと自分自身組み立てて走行しながらアジャストし、決勝でもタイムを出せて安定して走れたことは自分の引き出しも増えて今までの経験が活かしているのだと自信にもなりました。

そして決勝も、難しい路面コンディションの中で終始冷静に無線でやり取りしながらミス無く終わったことは良かったと思います。

あとは、ISというマシンのバランスをセットアップでもっと良くしていくことが、今後戦っていく上での最大の課題になってくると思います。



最後に

まずは今回 C ドライバーとしてチャンスをくださった TRACY SPORTS 代表の兵頭選手に感謝したいと思います。

そして豪雨で大変な天候にも関わらず応援に来てくださった方々、スポンサー様をはじめチーム関係者の皆様、本当に有難うございました。

今年は SUPER 耐久へのシリーズ参戦は今のところありません。

しかしながらこうやって呼んで頂けるよう、チャンスを戴けたときにはしっかりと応える走りをしていけるよう努力していきます。

そして自分の今年のメインの活動を早く発表出来るよう、現在ステップアップの為に全力で動いておりますので、どうぞ今後とも御支援御声援の程、宜しくお願い致します。

2014 年 4 月 2 日

東 徹次郎